

JAPAN PRIZE NEWS

財団法人 国際科学技術財団

THE SCIENCE AND TECHNOLOGY
FOUNDATION OF JAPAN (JSTF)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門四丁目3番20号

神谷町森ビル4階

電話 03(3432)5951(代) Fax 03(3432)5954

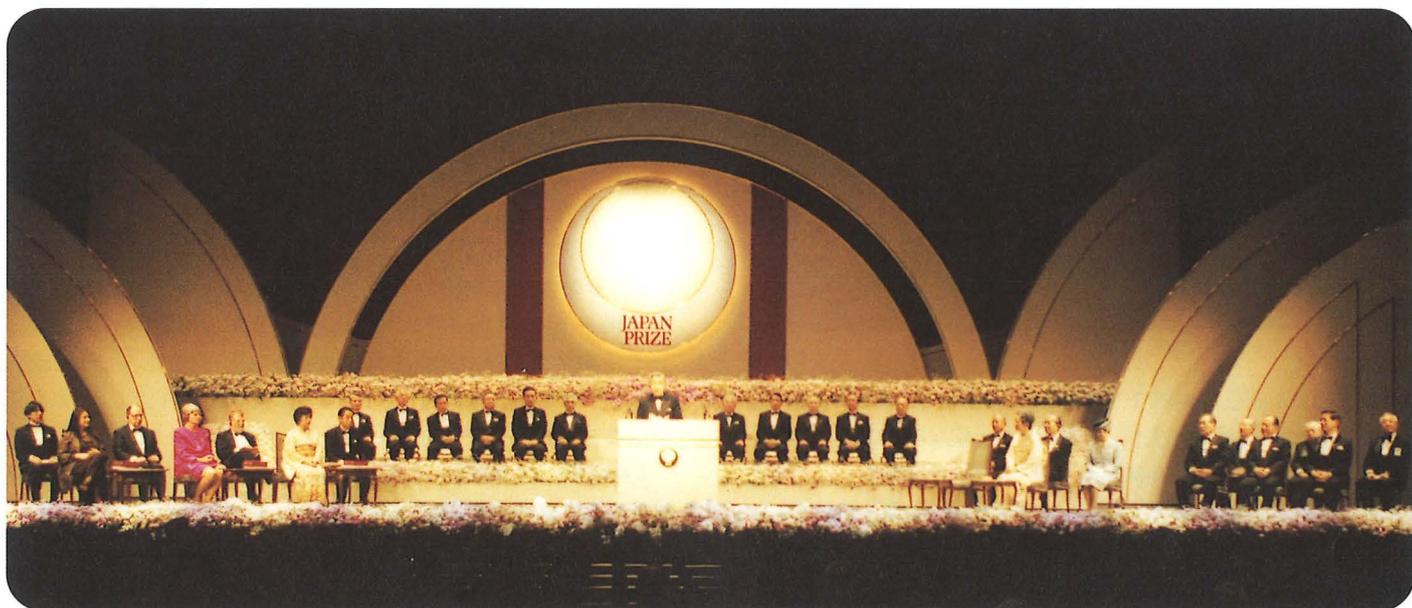
URL <http://www.meshnet.ne.jp/jstf>

E-Mail jstf@mx.meshnet.ne.jp



No. 20
1998年6月

1998年(第14回)日本国際賞 日本、ベルギーの3博士が受賞 天皇皇后両陛下をお迎えして授賞式



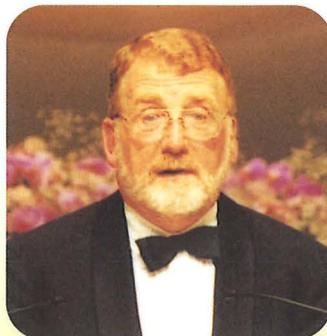
1998年(第14回)日本国際賞の授賞式が4月28日(火)、東京・国立劇場において挙行されました。今回の受賞者は「新材料の設計・創製と機能発現」分野で江崎玲於奈博士(日本、73歳。前筑波大学学長)。また「農業生産のバイオテクノロジー」分野ではジョゼフ・S・シェル博士(ベルギー王国、62歳。ドイツ・マックスプランク育種学研究所・植物育種遺伝学研究部長)とマ

ルク・C・E・ファン モンタギュー博士(ベルギー王国、64歳。ベルギー王国・ゲント大学理学部教授)の3人です。

日本国際賞は、財団法人国際科学技術財団(理事長:近藤次郎)が、世界の科学技術者を対象に、科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人々を毎年顕彰するもので、1985年の第1回から数えて今年で14回目の授賞となります。



江崎 玲於奈博士



ジョゼフ・S・シェル博士



マルク・C・E・ファン モンタギュー博士

JAPAN PRIZE

授賞式

天皇陛下のおことば

第14回日本国際賞の授賞式に当たり、江崎博士が「新材料の設計・創製と機能発現」分野において、また、シェル博士とファン モンタギュー博士が「農業生産のバイオテクノロジー」分野において、それぞれ受賞されたことを心からお祝いいたします。

江崎博士は、自然界には存在しない半導体超格子と呼ばれる新しい結晶材料をつくり出されました。この結晶材料は、博士の予



言されたとおりの優れた特性を示し、応用技術の分野に幅広い可能性を与えることとなりました。また、シェル博士、ファン モンタギュー博士はアグロバクテリウムによって植物に外来遺伝子を導入する方法を開発し、有用な遺伝子組換え植物の試作に成功されました。この技術は今後の農業の発展に大きく寄与することと期待されます。

ここに3博士の優れた業績に対し、深く敬意を表します。

今日、科学技術の進歩は誠に目覚ましく、その成果は、今回受賞された3博士の業績が示すごとく、幅広い応用を通じて、人類の生活に、様々な貢献をもたらし得るものであります。新しい科学技術が、今後とも、真に人類の幸せにつながるものとして発展するよう切に希望いたします。



天皇皇后両陛下のおことばに聞かせる3博士

授賞式は天皇皇后両陛下をお迎えし、斉藤参議院議長、山口最高裁判所長官、町村文部大臣、在日外国大使ならびに官界、学界、財界、ジャーナリストなど約900名が出席して行われました。

東京交響楽団が演奏する「日本国際賞・式典序曲—Overture Japan」で開幕となり、近藤財団理事長の開会の挨拶、猪瀬審査委員長による審査結果報告および受賞者の紹介、審査委員会各分野部会長による贈賞理由の説明に続き、3人の博士にそれぞれ賞状、

賞牌および賞金(1分野5千万円)が伊藤財団会長から贈られました。

受賞後、3人の博士は次のように挨拶されました。

「我々の生活の基盤は科学技術に大いに依存しております。特に先進国におきましては、経済発展とか、生活環境の改善、保健、医療の充実、天災、人災からの安全の確保、生活の質の向上に科学技術のノウハウが大いに貢献していることは否定できません。毎年の日本国際賞授賞は世界中の人々に対し、科学技術への関心を高め、その重要性を認識させることに大きな影響力を持っていると信じております。」(江崎博士)

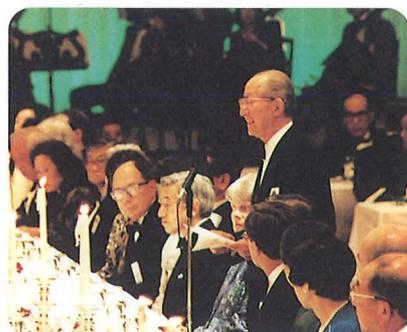
「世界の人口は増加の一途をたどり、耕作可能な土地は限られ、環境保護・保全の必要性が差し迫っています。最新の植物育種は、分子生物学の進歩と伝統的な知識や技術を一緒にして、環境破壊なしに農業生産性を維持・向上させざるを得ない方法であり最も効率的な方法の一つであります。」(シェル博士)

「私の思いは、環境の保全に関心がある全ての人々、特に今世紀後半にこの地球がどんなに被害を受けてきたかということを考慮して環境保全に関心を持たれている方々の思いとともにあります。こうした全ての方々が、我々の研究がもたらす貢献をご理解・ご評価くださるよう希望しております。」(ファン モンタギュー博士)

祝宴

授賞式終了後、同日夜、東京・ホテルオークラ「平安」において天皇皇后両陛下ご臨席のもと、各界約250名を招いて、祝宴が催されました。

伊藤財団会長の挨拶で始まり、ディナーのあと、受賞者3博士の栄



祝宴で挨拶する伊藤財団会長

誉を称えて天皇陛下より乾杯のご発声をいただきました。続いて伊藤参議院議長、山口最高裁判所長官、町村文部大臣、谷垣科学技術庁長官から乾杯のご発声をいただいた後、在日外交団を代表してジブティ共和国特命全権大使ラシャド・



祝宴風景

アムド・サレ・ファラ閣下による祝辞、さらに在日ベルギー王国特命全権大使ヒュスターフ・ディルクス閣下による祝辞が述べられました。

その後、各受賞者が希望された曲を千葉大学・宇都宮大学混成合唱団が合唱、和やかな雰囲気の中で江崎博士、シェル博士、ファン モンタギュー博士の順で謝辞が述べられ、華やかな祝宴は終宴となりました。

JAPAN PRIZE

受賞者の思い出のアルバム

江崎博士



5歳の晴れの舞台。バレエダンサーを志されたのでしょうか。



1945年、東京大学理学部2年生の博士。

トランジスターの発明者、ノーベル物理学賞受賞者の、ショックレー夫妻と、ブリュッセル国際会議場での語り。33才の博士です。



1973年、スウェーデン国王、カール・グスタフ16世からノーベル物理学賞を受けられる博士。

筑波大学の学生たちと散歩される博士。



シェル博士

ベルギー王国のアントワープ市でお生まれのシェル博士。これは博士が7歳の頃の両親とお兄様と御一緒の写真です。



ウルフ賞受賞の際、2人のお子様と撮られたスナップ。



ご自分のヨットで舵を握られる博士。レースにも出場され、スケールの大きなクルージングライフをお楽しみです。



1988年、マックス・プランク研究所に、ベルギー・ボードウィン国王夫妻とドイツ・ワイツェッカー大統領をお迎えして。



研究所同志の親睦サッカーでの17年前の博士。なかなかのフォームです。

ファン モンタギュー博士



ファン モンタギュー博士は、ベルギー王国 ゲント市のお生まれ。写真は16才のハイスクール時代。この頃すでに、生化学分野の研究に進む事を決めていたそうです。



24才でご結婚。幸せなカップルの誕生です。



郊外のカントリーハウスの屋根を修理される博士。



1989年来日のおりの北海道でのスナップ。



昨年、ベルギー・リエージュ大学、ブラジル・リオデジャネイロ大学、ベルギー・ブリュッセル自由大学の、3つの大学から名誉博士号を受けられました。

JAPAN PRIZE



日本プレスセンターでの受賞者合同記者会見(4月23日)



京都の休日(4月30日)



受賞者歓迎レセプション(4月24日)



記念講演会(4月24日)

日本国際賞週間

(財)国際科学技術財団では4月22日(水)から5月1日(金)までを「日本国際賞週間」とし、授賞式・祝宴のほか、内閣総理大臣表敬、日本学士院訪問、記念講演会を開催するなど各種行事を行いました。



学術懇談会(4月29日)



ベルギー大使館主催パーティ(4月27日)



内閣総理大臣表敬訪問(4月27日)



日本学士院訪問(4月27日)

1999年(第15回) 日本国際賞審査開始

1999年(第15回)日本国際賞の授賞対象分野は「情報技術」と「生命科学における分子認識と分子動態」の2分野です。

現在、当財団に世界各国の有識者から受賞候補者の推薦状が多数寄せられています。財団に設置される1999年(第15回)日本国際賞審査委員会審査を経たのち、受賞者の発表は本年12月、授賞式は来年の4月を予定しています。

「情報技術」

デジタル化の進展に伴い、現代社会のあらゆる局面で、情報技術はますます重要な役割を担うようになっていきます。

1999年の本賞は、効率的で安全性の高い情報システム構築の基盤である符号化および暗号化技術、信頼性およびセキュリティ技術、ならびに関連するデジタル情報技術の発展に対する顕著な業績に与えられます。

「生命科学における分子認識と分子動態」

生命科学の近年の発展には生体分子がどのようにして他の生体分子を認識するのかという原理の理解が重大な貢献をしました。また、生体内の分子の動態を認識することによっても生命現象の理解は格段に深まりました。1999年度の本賞は広い意味での生体の分子認識の原理の発見と分子動態解析技術の開発の両面を対象と致します。